

薬剤名・剤型 (商品名) (委託者名)	有効成分および 含有率 (%)	試験実施 場所 (場所数)	試験の種類 [対象雑草, ねらい] 処理時期; 散布薬量(製品/a) <水量/a>; 処理方法等	新継 の別 今回 判定	判定理由または内容
3. ANK-553 乳 (ゴーゴーサン) (ゴーゴーサン普)	ペンディメタリ ン……………30	熊本, 鹿児島. (2)	適用性 [一年生雑草全般, ソル ガム栽培地における効果・薬 害] は種後出芽前, 雑草発生前~発 生始期; 20, 30, 40 ml <10 l>; 土壌処理. ソルガム3葉期; 雑草生育期; 20, 30, 40 ml <10 l>; 茎 葉処理.	新規 継	・試験年次不足.
4. XRD-233 液 (XRD研)	トリクロピルト リエチルアミン ……………30	北海道, 北 海道中央, 同根釧, 岩 手, 長野, 新潟, 熊本, 大分. (8)	適用性 [ギンギン等広葉雑草, イ ネ科牧草地における効果・薬害] 春および秋期, 雑草生育期40~ 60 ml <10~15 l>; 茎葉処理.	継続 実・ 継	実: [ギンギン] 春期, 40 ~60 ml <10~15 l>; 全面茎葉処理. 継: 秋期処理, およびタン ポポ・オオバコに対する 効果の変動(処理時期, 薬量等について).
5. GW-7 微粒 (ヒロバートル) (C-MH) (ヒロバートル研)	マレイン酸ヒド ラジドコリン塩 ……………3	岩手, 群馬, 大分. (3)	適用性 [ギンギン(2年生以上の 親株対象), 秋期処理・薬害] 秋期(10月上旬~11月上旬), 生育期; 3, 5, 7 g/株; スポ ット茎葉処理.	継続 実・ 継	実: [ギンギン(2年生以 上)秋期, 雑草生育期, 降霜10日前まで, 5~7 g/株, スポット茎葉処 理. 継: 処理時期, 薬量の検討. 適用地域の拡大.

2. 昭和60年度(一年生雑草対象)

薬剤名・剤型 (商品名) (委託者名)	有効成分および 含有率 (%)	試験実施 場所 (場所数)	試験の種類 [対象雑草, ねらい] 処理時期; 散布薬量(製品/a) <水量/a>; 処理方法等	新継 の別 今回 判定	判定理由または内容
1. ANK-553 乳 (ゴーゴーサン) (ゴーゴーサン普)	ペンディメタリ ン……………30	九州(作用 性), 茨城, 千葉 嶺岡, 広島, 宮崎. (5)	適用性 [一年生雑草全般, ソルガ ム栽培地における効果・薬害] は種後出芽前, 雑草発生前~発 生始期; 20, 30, 40 ml <10 l>; 土壌処理. ソルガム3葉期; 雑草生育期; 20, 30, 40 ml <10 l>; 茎葉処理.	継続 実・ 継	実: [ソルガム; 畑地一年 生雑草全般(ただし, キ ク科・ツユクサを除く)] は種直後, 20~40 ml <10 l>; 土壌処理. 継: ソルガム3葉期; 効果 の変動および薬害につい て.

台東 1-26-6)

植調協会だより

・昭和60年度冬作(麦類・いぐさ・水稻刈跡)

関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

◎ 会議開催日程のお知らせ

日時: 昭和61年9月3日(水) 10:00~17:00

・昭和60年度非農耕地用除草剤試験成績検討会

場所: 薬業健保会館(東京都千代田区永田

日時: 昭和61年8月7日(木) 10:00~17:00

町 2-17-2, TEL. 03-581-

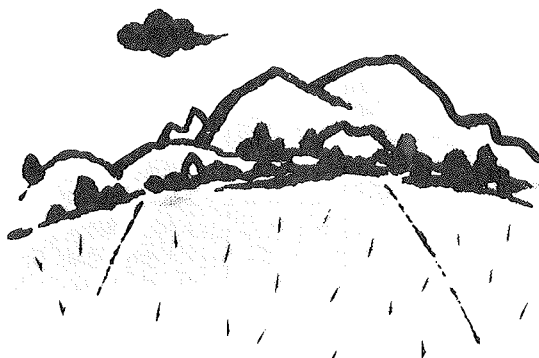
場所: 植調会館 3階会議室(東京都台東区

1231)

農薬は正しく使いましょう。

一発いちはん！

ヨートル普及会



●水田除草剤

ヨートル[®] 粒剤

◆一発処理でも高い防除効果を示す水田初期除草剤

- 広範囲の雑草に効果があります。
- 処理適期幅が広く、使いやすい除草剤です。
- 雑草がダラダラ発生する場合でも安定した効果があります。

編集後記

梅雨末期に来襲する湿舌は、各地で土砂崩れ等による被害をもたらし、尊い人命を奪っている。火山列島である以上、多量の降雨によって水分を含んだ土砂が、斜面を滑り落ちてくることは当然の理であるが、そのような土地に住まわざるを得ない人々の立場に同情するだけでは済まされない。かつての政治は、治山・治水に重点がおかれてきたが、現代の政治は税金のとれる産業の育成に重点をおいている。株価は異常高値を続け、都心の地価は10年の間に10倍以上にはね上がるという異常現象……これは日本以外では考えられないことだ。3.3m²当り1億円の土地で水稻を作ったとしたら、米1粒の価格は一体どの位の値段がつけられるのであろうか。都内の住宅地域に点在する農地では、未だに農業が営まれ、野菜等が栽培されているが、これとて、地代を正確に計算したとしたら、か

なりの生産費となるのに違いない。食糧の輸入が断たれた場合ならいざ知らず、農業は山村あるいは僻地に委ねるべきである。土砂崩れを繰り返すおそれのある山村の山を切り崩し、広大な平地とし、土壤改良を行えば、過去の悲劇を繰り返さなくてすむであろうし、農業生産にも役だつのではなからうか。

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都台東区台東1丁目26番6号

電話 東京 (03) 832-4188 (代)

昭和61年7月発行

植調第20巻第4号

定価 400 円 (送料 170 円)

編集人 日本植物調節剤研究協会専務理事 吉沢 長人

発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会

発行所 植調編集印刷事務所

電話 東京 (03) 833-1821 番 (代)